

市民と市長の対話集会

「つながるまち小郡」を語ろう！

会 議 録（要約）

説明) 買い物弱者対策（移動販売事業等）の
推進について

（会場：ポピーの里あじさか館）

○買い物弱者対策（移動販売事業等）の推進について

加地市長：

テーマに入る前に、まず「買い物弱者」とはどういう人たちなのかについてお話をしていききたいと思います。

買い物弱者とは、「日常の買い物や生活に困難を感じている方」のことです。買い物弱者対策を進めることで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを推進していきたい、というのが今回のテーマの目的です。

買い物弱者対策の取り組みとしては、これまでも重度障害のある方への福祉タクシーの利用助成、コミュニティバスのイオンへの乗り入れなどいろいろやってきたのですが、こうした支援を行ってきた中で、見えてきた課題があります。

一言に「買い物弱者対策」といっても、必要な対策は地域によって事情が違います。地域によってスーパーのあるところないところ、コンビニがあるところないところ、距離があるところなど、状況はさまざまです。そして、この異なる状況に対し、市が、直接的かつ一律に行える支援には限界があります。要は地域事情があまりにもいっぱいあるものですから、市が一齐に「こうしましょう！」といってもそう簡単にはいかないんです。そのあたりの課題が見えてきました。

では、この課題の解決のためにはどうしたらいいのでしょうか？ そのためには、この地域には何が必要なのか、地域の皆さんと一緒に「地域に何が必要か」を考え、地域でできること、行政でできること、助け合ってできること、そうしたものをうまく組み合わせ、買い物弱者対策を行う必要があります。まさに共に働いて、「共働」の事業として地域課題を解決していこうという考え方です。

このテーマについて、7月に行われた「市民みんなでサービスチェック」では、有識者や市民の皆さんから次のような意見をいただきました。

- ・「めぐみの里や宝満の市の移動販売車展開をすれば、一緒に地産地消も図れるのでは」
- ・「外出自体が困難な方、近所の公民館までは行ける方など、買い物弱者も実態に応じて様々。段階に応じた宅配、移動販売等は必要な取組みなので推進してほしい」
- ・「同じ市内でも地域によって必要な支援は違う。それぞれの地域の実情に応じたサービスを展開していく必要がある」
- ・「市、校区、行政区それぞれが、これから取り組む内容を相互に考える必要がある。市で全てをやることは難あり」 などのご意見です。

さて、市内では、以上のような課題を解決すべく、すでに地域の皆さんご自身によって対策を講じておられる地域もあります。

たとえば、御原小学校区やのぞみが丘小学校区で行っていただいているモデル的な取り組み「自治会バス」です。買い物に不便されている方を買い物のできる場所に連れていくという支援です。御原小学校区ではみはら号、のぞみが丘小学校区ではベレッサ号という名前で、地域の皆さんがボランティアの運転手をされるなどして行っていただいています。運行のボランティアだけでなく、ルートの設定なども地域の皆さんご自身で行われていまして、行政としては、車両を無償貸与したり、また燃料費や任意保険料の補助といった支援を行うことで、地域の皆さんと行政が一緒になってこの問題を解決していくという実践例となっています。

ここ味坂校区では、味坂校区協働のまちづくり協議会に「買い物支援運営委員会」を作っていただきまして、地域の実情に合った取り組みとして、ここポピーの里あじさか館で地元の農産物を販売する直売所「あじっこ市場」が9月12日からオープンしています。

また、外出が困難な方を対象とした宅配事業「あじさかお届け便」が10月12日からスタートする予定となっています。更には、今後の展開として、移動販売車両を活用した自治公民館などでの移動販売も検討されているということです。

このように、多くの皆さんに頑張っていただいている地域の先進的な取り組みを参考にしながら、違う地域ではこれらの事業をどのように応用できるかを考えて、買い物弱者対策を市内全域に広げていきたいと考えています。

この取り組みを頑張っていただいている皆さんには本当にお礼を言いたいと思います。どこかの一つの地域に突破口や新しい例を作っていただきますと、それをヒントにほかの地域でもいろいろな取り組みができるということがわかってきます。

これまでのみはら号、ベレッサ号、あじっこ市場の取り組み、こうしたものをうまく組み合わせていくことによって、それぞれの地域の実情に合った買い物弱者対策、そして誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを推進したいと考えています。